

第207回 番組審議会

1. 日 時 平成23年11月8日 (火) 12:00～
2. 場 所 ホテルメトロポリタン盛岡 ニューウィング 3階「星雲」
3. 委 員 委員総数 12名
出席委員数 10名 (欠席委員数 2名)

○ 出席委員 (敬称略)

中村 慶久 (委員長)

三浦 宏 (副委員長)

—以下50音順—

久慈 浩介

斎藤 純

東海林 千秋

菅原 正二

藤原 保雄

村上 幸子

八木橋 伸之

吉田 浩次

○ 会社側出席者 (6名)

佐藤 滋樹 (代表取締役社長)

小原 忍 (専務取締役)

藤澤 利憲 (常務取締役)

前田 秀男 (取締役編成技術局長)

藤原 銀司 (取締役営業局長)

青瀧 博文 (関西テレビ放送 報道局 報道部 副部長)

○ 事務局 村田 重昭

4. 議 題

今回は関西テレビジョン 報道局 報道部 副部長の青瀧博文 氏をゲストに招き、「関西テレビ報道部の取り組む震災報道」をテーマとして講演を頂いた。

5. 議事概要

講演は、関西テレビ報道部が、東日本大震災をどのように取材し放送しているかを主題に行なわれた。

青瀧副部長は、震災の取材について「関西テレビ報道部はFNN取材団として、のべ90人の記者が、めんこいテレビをベースに被災地取材を行った。」と語った。また、青瀧副部長自身も16年前に取材を行った阪神・淡路大震災との関連について「阪神・淡路大震災で得た教訓を生かし、今後も被災地関連の報道を続けていきたい。」と述べ、さらに関西地区で放送された震災半年後の特別番組を例にあげ「東日本大震災の現場から関西は遠いが、阪神・淡路大震災を経験した関西テレビだからこそ出来ることがある。」などと話した。

講演後の委員との意見交換において、委員から「被災地取材で、取材対象者への配慮が行き届いていた。」「関西テレビの方々をはじめ、阪神・淡路大震災を経験された関西の方々が、本当に被災地のことを思ってくれていることがよく分かった。」「ぜひ、今後も折に触れて震災の検証をして欲しい。」「これからも阪神・淡路大震災の経験を生かして、被災地に寄り添った報道を長く続けていって欲しい。」などの意見があった。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

* 平成23年11月9日(水) 産経新聞 東北

番組審議会

岩手めんこいテレビ

岩手めんこいテレビの第207回番組審議会（中村慶久委員長）が8日開かれ、東日本大震災の報道をテーマとした関西テレビ報道部の青瀧博文副部長の講話を聞いた。

青瀧副部長は「16年前の阪神・淡路大震災で得た教訓を生かし、今後も被災地関連の報道を続けていきたい」と話した。委員からは「関西地区で被災地の様子を伝えていることに感謝する。末永く継続して報道してほしい」などと期待する声が相次いだ。

- * 平成23年11月19日（土）午前4時42分から4時45分まで「めんこいテレビ 番審レポート」内で放送
- * 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし